

ウオッチング多摩ニュース

第87号

2018年7月5日
ウオッチング多摩の会

思考停止が招く危機

阿部市長の所信表明

4月の市長選挙後、3期目を迎えた阿部市長の所信表明が6月議会であり、骨子が「たま広報」(6月20号)に掲載された。これまでの公約をほぼ達成したと公言する市長が、所信表明でさらに何を語るのか。3月議会で発表された施政方針、選挙で掲げた公約・政策目標とあわせて市長の姿勢を質したい。

あきれて茫然自失の

「所信表明」結び

「4年前の所信表明で掲げた「コミュニティの醸成」「幸福感の創造」の問題意識は変わらず、さらに熟議と対話、決断と実行、傾聴と寄り添い、時には立ち止まる勇氣と

包容力、常に市民主権の原点を忘れず、市民の皆さんと共にまちづくりを前へ進めてまいります」

(「所信表明」より)

「ここまで空々しく美辞麗句を並べるか。」

市政の実態に向き合ってきた「ウオッチング多摩の会」は、この巧言の羅列に虚ろで、憤りさえ感じ、思考停止かと危機感を抱いてしまう。

市長は2期8年に掲げた公約はほぼ達成したと公言しているが、何をもちてそう言えるのか。多摩市には5〜600の事業があり、その中から市長のいう「コミュニティの醸成」「幸福感の創造」に繋がっている事業をカウントするなら妥当とも言えるが、これは誰が市長であっても同じような結果になる。

阿部市長が目指し、一期目に公約として掲げた市民参加・市民自治の看板政策「地域委員会の創設」「住民投票条例の制定」は何処へ行ってしまったのか。なにひとつ進んでいない。「阿部さんなら……」との市民の期待は消え失せてしまっている。肝心要の公約が果たせないのに、「ほぼ達成」と言ってはばからぬ厚顔無恥は許し難い。地域委員会・住民投票条例は掲げてみたが容易ならざるも

放談会

今号の特集

監視・修正機能が弱い議会

その上にあぐらー市長と行政

・3期目の阿部市政について多摩市ウオッチャーが激論!

のがあるという言い訳はある程度受容しても、「市民に寄り添い、市民がデザインするまち」という方針は、心を込めた自らの行動で市民に伝わるものだ。大見得を切りながら言行不一致を恥じない市長には、首長としての危うさを感じる。



軽い言葉が舞った
8年間!

3期目は
有言実行で
信頼を回復できるか!

政治家としての
真価が問われる

アライバイ作りとしか思えない 市民参加と庁内不正隠し問題

市長の発信定番である「市民・議会との合意形成プロセスを大事にする」とした市民説明会、各種委員会、市民意見の募集など、市民参加の手続きを重ねていることは認めたい。だが、これらのプロセスを経たものは大半が表層的であり、意見の聞くだけで議論を深めた形跡は少ない。「意見は聞いた、説明もした」という言い訳に使われ、結果的にすべからず行政案に着地するためのアライバイ作りに終始した感を拭えない。

さらに度重なる庁内トラブルについて、問題解決の経過やその対応を含めて事実が市民に知らされていない。結果だけが報じられたのでは、市民は意見の言いようがない。行政内部の都合で出された結果のみの公表では、「徹底した情報公開」からはほど遠く、市民参加の基本を逸脱している。

職場環境の整備について「市民目線に立つ



まっとうな市政を!

ウソをつき、それを隠すためにごまかし、文書まで変えるのは許せない!

た組織づくり・人材育成」と述べているが、正直にもいえない庁内雰囲気であつては、組織・人材づくりは砂上の楼閣だ。市職員の子弟の保育園優先入園では、公正・公平を旨とする職員規範を自ら乱し、さらに内部通報職員を左遷するに及んでは、市政への不信感を醸成し士気を大きく低下させている。

費用膨張が進む「パルテノン多摩」

「新設中央図書館」

パルテノン多摩の大規模修繕は80億円の改修ありきでスタートし、市民参加の委員会を利用者の意見を聞く会に終始して、改修の是非や改修額の過多といった基本的な問題を論議せずに終わった。改修費用80億円は、大幅に圧縮する努力が求められる。このハード投資額は、新しい場としての運営によって投資対効果が長期的に十分得られるものとすべきであり、私たち市民が得心ゆくものとしてもらいたい。「長期的」とは、市債10年間の返済を終えた後も抜本的な運営力によって収益が上がる。パルテノン経営政策を展開することであり、ハードとしての長寿命化計画40年に同調したものでなければならぬ。運営難で更なる税の投入を市民に求める事態を避けるためにも、中途半端にならないように改修計画を今からでも見直すべきだ。

この改修について議会の対応はどうだったか。市民に寄り添ったはずの付帯議決は、どのような成果を生んだのか。議会には、今後進められる具体的計画に対して何をするための「場」づくりなのかを意識し、運営する担い手を徹底的に研究して、ソフト優先の運営に徹する論議を期待したい。付帯決議の「改修費上限の意識」「多摩センターの活性化」「市民意見の反映」の具現化を今後の常任委員会に期待しても無理か。

中央図書館の建設では、市民参画の基本構想策定委員会からイメージ先行の理念「知の地域創造」が答申されたが、その後の基本計画に市民意見がどこまで反映されるのか疑わしい。進行中の基本計画委員会の委員長が、「ここから先は市民が決めること」「パルテノンとの相乗効果の前に、それぞれが何を目的とする施設かを明確にすべき」と発言しているが、これは適切な指摘だ。今後の展開に注目したい。特にハード建設の工程を優先し、上記のプロセスが未消化となれば、地域館との関連や新市役所の行政資料室、IoTの活用、AIの利用など、これからあるべき市全体の図書館行政の本題を見失うことになる。現在の仮設本館のハード対応を急ぐ、という理由で100年の計を危ういものにしてはならない。「この狭い多摩市、そんなに急いで何処へ行く」

一案だけの決め打ち

行政手続きは時代遅れ

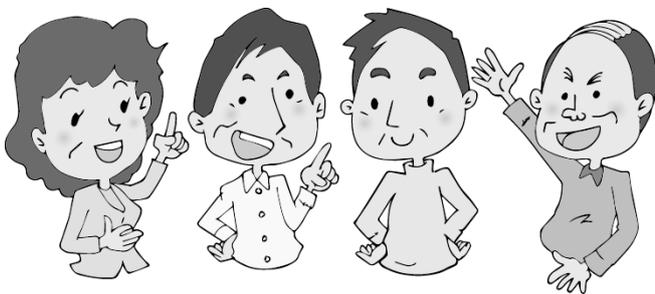
市民の価値観が多様化し、市政への関わりが多岐にわたる今日、「まちづくり」を創り上げるためには熟議による合意形成が必要である。行政手続きの手法として、効率的な遂行のため行政計画案をたたき台として提示して進めることもありうるが、これからのまちの在り方を決定づける大事な事案について行政案一つに決め打ちする手法は、ダイバーシティといわれる多摩市の多様性ニーズに対応していない。市長の言行不一致がここに如実に表れている。「大事なことは市民が決める」の市長の言葉は今期こそ現実を実現すべきだ。所信表明で市民協働による「財政白書」作成と言っているが、いま決断する公共施設の建設はこれからの半世紀50年を見据えた事業であり、長期的経営の展望に立脚したものでなければならぬ。東京オリンピック後に多摩市誕生50周年記念事業が、今議会でも話題となり華やかなイベントもいいが、この際市制50周年を期に、多摩市100周年の姿を描き切れる、財の入りと計り支出を抑制する経営白書作りに取り組みることこそ意義あるものだろう。市民参加のもと財政白書を策定した、という従来型行政手法で終わらせてはならない。

世代を超えた問題を

解決する意志はあるか

「まちのかたち」は、公共施設があり、そこで展開されるコンテンツで評価される。日本全体で身の丈以上になった施設をどうするか、コンテンツをどう充実させるかは、いま検討すべきテーマだ。パルテノン多摩・中央図書館・永山駅周辺(日医大建て替えも含む)・新市庁舎の建設は、歴史を学び、歴史を教訓とした総合的、かつ長期的展望のもとで立案されなければならない。

今でも高齢者が多い多摩市。さらに超スピ



費用ありき、日程ありき、計画ありきでは、市民意見はアリバイづくりに利用されるだけ!

ードで増え続ける多摩市。そして、その後人口減となる多摩市。担税者の減少に加え、年金・医療・介護は基礎自治体の裁量で軸足を変えてきた国の方針により、明るい未来を展望しにくいのは事実。こんな時代だからこそ、市長の言う「市民がデザインするまち」を名実ともに実現しなければならない。

今からでも遅くない。パルテノン多摩・中央図書館・永山駅周辺再整備・市庁舎の建設は、世代を超えた問題に他ならない。これらの計画は、残り少ない市民共有財産である学校跡地の活用、税金だけに頼らない施設の在り方、公共交通の在り方など、バランスがとれた50年後のまちの姿を描いてこそ実りあるものになる。3期目を迎え、市長好みのカタカナ語「シビックプライド」が登場した。近代初期のハード崇拜による「シビックプライド」形成の焼き直しから、市民力による「わがまち」醸成へと舵を切る必要がある。また、もや言葉だけが舞い踊るトラップとなり、「シビックシエイム」と恥じるまちになってしまうのだけは避けたい。(了)

ウオッチング多摩の会

代表 神津幸夫

監視・修正機能が弱い議会

その上にあぐらー市長と行政

合意形成への努力なし

ただやるだけの住民説明会

梅雨晴れの一日、ウオッチング多摩の会(W会)会員など12人の市政ウオッチャーが唐木田・菖蒲館に集まった。神津代表のペーパーによる問題提起を受けて、それぞれの思いを語り意見を話し合うためである。話は放談風に交わされたが、4月の選挙で再選され「3たび重責を担う」と胸を張る市長にも、ほとんどが市長与党化した市議諸公にも痛烈で厳しい中身になった。以下にそのやり取りを紹介する。

出席者は大津山寿久、菊池克行、神津幸夫、庄子元、高木洋子、高橋俊彦、田上順次、花谷修一、半田拓司、水野宏、山下亨、山田倫彦。現場の実際はこの記録を読まれた印象よりたぶん、もっと厳しく、そして「笑い」はもっと少なかったことも付け加えておこう。(記録・W会半田拓司)

3期目の阿部市政について多摩市ウオッチャーが激論

市長の返事には心がない

会は、Wニュース 86号で「森友と同類?!」と報告し6月市議会でも取り上げられた市の保育園不正入園事件について経過報告で始まった。この問題での市のやり方は、神津代表によると「市民への情報共有」を基軸にした多摩市自治基本条例の精神に違反する。この基本条例といまの市政との関係もこの日、議論のテーマの一つになった。

ついで話は6月議会での市長の所信表明に。「具体的な提案が少ないね」という意見にみんなが頷き「市長は選挙で公約のほとんどは達成したと言っていたが、どうも事業・施策項目を立ち上げたかどうかで〇×にしているらしい」と神津さんが首をヒネった。所信表明については、市長として初当選した時の公約であった「地域委員会」への取り組みを改めて表明したが、8年間の取り組みの



市民権と口先だけで
実際は何もしていない!

検証・総括も不明で「これではまるで思考停止だったのではと言わざるを得ない」

A W会としては市長に公開質問状を何度か出した。返事は返ってきたけど、何と云うか、心が籠っていないというか、心がないんですよ。

B 市民の間では「市長はおしゃべり好き。美辞麗句を適当に使っている」という批判がある。これは、言動に総括もないしリアリティも乏しい、という批判ですけれど、同時に、**議会のチェック機能**が働いていないということでもありますね。

D 地域委員会のことですが、これは自治基本条例に即した制度設計の課題で、住民自治の新しいステージを展望したものでしょう。ところが阿部市長は第1期の公約に掲げながら、この8年間にこの問題でどのような制度設計に取り組んだんですかね。棚上げ状態であったのでは。

E 6月の議会でも地域担当制の話は出てますね。

D これは1968年の千葉県習志野市の取り組みが草分けです。現在はこれに「まちづくり会議」と「まちづくり予算

会議」がセットとなつている。市民の自己決定と行政の裁量の関係には本質的な課題は残っていますが、市民と行政の間の常設的なパイプという意味では重要な取り組みだと思えますね。

F 阿部さんのはみんな借り物なんです。地域委員会は名古屋の河村市長からだし、ウエルネスシティというのは埼玉県の上田知事。今度のシビックプライドというのだって倉敷市長の伊東香織さんが言い始めた。コピペじゃ(笑い)。みんなランキングされてネット上で流されている。マニフェストなら数値目標や実施期限、優先順位がなければね。

2期目から何も言わなくなつた

B 小平市で何年か前に都市計画道路の問題で住民投票をやったことがありますね。議会の決めた制限規定のために投票率が50%に達しなくて不成立になり開票もされなかった。自分たちは投票率が50%に満たない選挙で当選してきているのに住民投票の中身も聞かないとは何だ、ということですよ。

D この件は、2元代表制の形式的正当性にあぐらをかいた「行政と議会の合作劇」という象徴的なきごとだった。当時、小平市の市長も「市民に寄り添う」と公言していたんです。いずれにせよ、今回の地域委員会、地域担当制の提起が、多摩市の市民参加の新しい地平をどう切り開くのかしつかりとウオッチしていく必要があるということですよ。

G そうですね。「スマートウエルネスシティ」なんて当たり前のことだ。言われなくてもやる。それを政策の大目玉にしているんだから。

F いま議会で市長に批判的に対抗するのは3人くらいですかね。**大政翼賛会**みたいになつてしまった。応援していた人たちも2期目以降みんな離れていって阿部1党独裁だ。

B 議会のチェック機能ないしは政策立案機能が十分に発揮されていないんです。そういう議会の上に行政が乗っている。この構造への批判がまず必要なんじゃないですか。

F 監視機能も修正機能も弱いね。ほとんど何もやってない。市長も行政もそのにあぐらをかいているんだ。(笑い)

F エライ苦労して作ったんですよ。1年2ヶ月、土日、休み返上だった。途中で市長が変わって反対のムードが強くなつたしね。みんな情熱を傾けて作ったんだが、若手の女性議員の一人が頑張ったね。共産党は反対していた。中に阿部さんもいて行事をやるときには出てきて能書きを垂れるという感じだったな。この条例が最近、形骸化しているといわれるが、確かに2言目には「条例、条例」と言つて「大事なことは市民が決める」と言ってきた阿部さんが2期目からは何も言わなくなつた。(笑い)



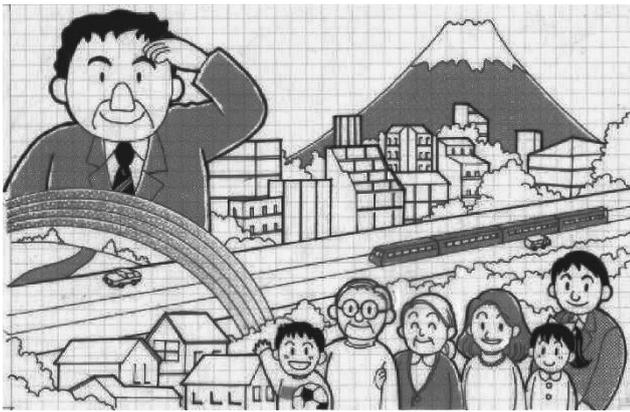
「情報公開」というが
肝心の情報が出て来ない!

A 市長が実際にやっているのは条例とはずいぶん離れているようですけどね。

F 憲法もそうですが、理念条約的な面があるからね。きれいごとのところがある。しかし実際は**条例の施行規則**が市民の手の届かないところで出来上がったのが実態です。

A 確かに表面的には美しいところがありますが、実際の行政にどこまで落とし込んでやっているんですかね。

F そんなこと何もやってないでしょ。出来た後には自治推進委員会を作って東海大の山内和夫教授に委員長を依頼した。



A 2年かかってさっきの地域委員会や住民投票条例について答申を出した。

A それが庁内の検討会議で「そんな時期ではない」と放り出されてそのままになったんですね。自治推進委員会は答申を出して終わってしまったっている。その存在意味ってどこにあるんでしょうかね。

F 最初はまあまじめにやっていたんだ。そのうちにおかしくなって、みんな楽しんで仲良くやりましょう(笑い)になっている。

C 条例が立派で施行細則に漏れがあった、というのは残念だけど、いまの市長にやらせるのは無理ですね。今度の所信表明でも「障がい者差別解消条例」や「子ども若者総合支援条例」の制定なんてカッコいいお題目を並べているに過ぎない。何作っても器だけ作って**心を入れない**んだから意味がないんだけど、彼にとつては制定したことが成果なんでしょう。自治基本条例への対応を見れば明らかだ。やはりおやめいただくしかありませんね。(笑い)

B この条例は貴重でまったくおかしくない。それに基づいたことをやってこなかったのが問題なんです。

F この間に一回も変更していないというものもおかしなものですよ。ニセコ(北海道)でも、条例は多くが改正されてきている。

キャッチコピーが政策なのか

B 阿部市長は、広告の世界のキャッチコピーを出すことが政策だと思い込んでいるところがある。アイデアや思い付きが即政策になるなんてあり得ない。行政的な手続きを含む政策設計が必要だし、議会や市民との協議も不可欠だ。そういうことをせずに、ただアドバルーンを上げてそれに酔い痴れている。

C 例えば「多摩市人材育成基本方針に…」なんて能書きを述べているけど、職員から内部告発が続いてそれを力で抑えている現状を総括もせずに人材育成とはよく言えたものです。言葉だけの所信表明を読む度に多摩市の**将来が不安**になる(笑い)。ホントですよ。

A 作ったものを現実にするのは、やる胆力と構想力がないとうまくいかないはずでしょう。

F やる気のある職員がたくさんいるから

うまく使えば出来るんじゃないか。

D いや、上がきちんとした職務命令を発しなればダメです。庁内民主主義も重要ですよ。

A われわれとしたら政策提案したり陳情したりすることはできる。でも議会に反対されたらポシヤります。

D 来年度から副市長が二名になり、新しい副市長は市民参加関連業務を所掌するということから、役割をきちんとして市の特権事項にしていけば出来るかもしれない。

A 条例を生かすために市民が立ち上がって制度化するためには何が必要だろうか。

F そろそろ改正したらいいんですよ。特に施行規則と一緒に。

D 公約は約束ごとですから、フォローする必要はある。公約の実行と民意の反映を迫り詰めていくんです。

C あきらめずに迫り続けるのが必要なことは理解しますけど、いまの市長を相手にして多大な時間を費やすのは空疎極まりなく、多大なストレスを禁じえな

い(笑い)。

D それはダメですよ。攻め上げていかななくては。例えば「公約は守れ、ウソをつくな」というメッセージは絶対に必要でしょう。

F 市議選前に議員通信簿をもう一回やったらどうか。

A やはり地道な市民運動ですかねえ。

D それが動かないと何も動かないね。

C 僕はシカトする。相手にしない。(笑い)

D それでは石を投げたりタマゴをぶつけるのと同じですよ。議論しようと言っているんだから徹底的に議論しなくちゃ。

C おっしゃる通りですが、ストレスがたま



議会の仕事は一つ
行政のチェック機能!

るなあ。

D 最終判断は市長で、それから議会でしょう。われわれは徹底して熟議による市政の展開を追求することが必要じゃないか。

「説明はした」と言っているだけ

A 市長は市民との合意形成のプロセスを大事にすると言っている。確かに市民説明会、パブリックコメントの募集などは増えてきている。

F 大事なものはパブリックコメントなどの市民意見をすべて名前は伏せて公開すべきだということですよ。せめて検討会議で取扱うべきじゃないか。

B 住民説明会では何でも、いろんなことをやってきました、と言っているだけです。実は合意形成の明確な手続きはまったく踏んでない。住民に説明した上で政策をやっているとやっているだけなんです。

市民15万人全員が
ウォッチャーであり
サポーター!

C そういう実態を市民にちゃんと知らせないと分からないんですよ。市長選挙直前にマスコミに対してリリースした6点にわたる多摩市職員の内部通報に関して、6月議会で市長は**第三者に委嘱**して事実解明中と答弁しましたが、議員からは第三者とはだれか、委嘱した内容の詳細は何か、委嘱に関する契約書を出すよう要望する等の基本的質問さえない。恐ろしいほどの鈍感さなのか、全くの馴れ合いなのか、震撼とする思いです。

A 情報公開ってどうなっているんですかね。

F 市民の参加、市民協働のためにどうしても必要な情報公開です。市長の責任という形で公開したらいい。

A 情報公開ではそこに至った経過を知らせるのが大事ですね。決まった後に結論だけを公開しても意味ない。そのことを明文化する必要がある。

J 確かに事実は事実として明らかにしてくれないと判断のしようがない。

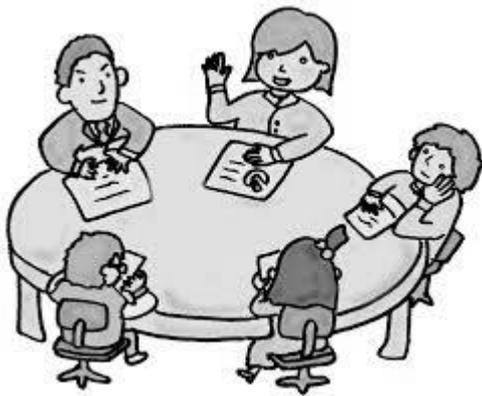
A 手段としては条例改正しかないんですかねえ。

B 基本条例を実施するための手続き(施行

令)を明確にしないといけない。具体的なルールを作らないと行政や議会が否定したりあいまいなことを言ったりすると飛んじやう恐れがある。地域委員会も住民投票も2元代表制の弱点や隘路にクサビを打ち込むことなんだ。アンケート、説明責任、ワークシヨップ、パブリックコメントも含めてプロセス論まで含めてしっかりやらないと。

ほかの町ではいい図書館がたくさん

A パルテノン多摩の改修と中央図書館建設の問題はどうですか。シナジー効果(相乗効果)とか言ってこの2つは同時



市民の意見を行政に反映する仕掛けがない!

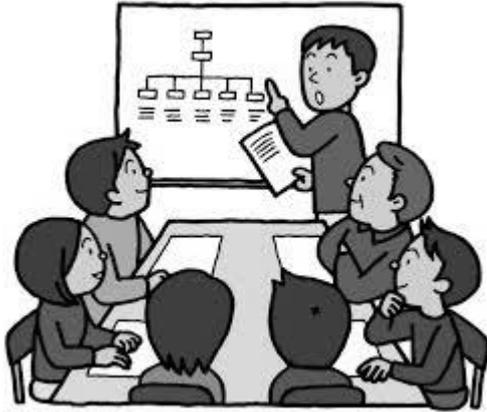
進行でやるのが都合がいいらしい。どんどん進んでいる。例によってハードウェア先行ですけど。それぞれの機能が明確にされないままの相乗効果なんてナンセンスだ。

J この状況を変えるために何が出来るか。具体的な提案をする必要がある。例えばコンペを市民が審査することが出来るのか。そういう形で市民がかかわれるような提案が出来ないだろうか。

A 図書館についてはその意見を出すパブリックコメントが7月中です。

K だけど、市長が所信表明で公共施設の見直し方針を着実に進めると言っているのだから、この2つは見送るべきじゃないですか。矛盾ですよ。

B 本来、複数案をコンペなどで公募してやるべきですよ。パルテノンも改めて85億かかるという話が出てきた。それを50億にして図書館は30億円くらいに抑えて、2つで上限80億でどうかというのに、85億という話ですよ。いま市民にアンケートをしたらひっくり返っちゃうかもしれない。この問題は議会の特別委員会でも最初4案出てきた段階で市民の意見を聞く必要があったんだ。それ



大事な方針は熟議を積み重ねて
英知を得る！

I そういうことによつて何かが変わつたか、何も変わつてない。こういうやり方を打破しない限り何も変わらない。市民の意見の反映なんかどうでもいいんですかね。

H 図書館本館再整備基本計画検討委員会に市民委員も何人か入っているが、これもアリバイづくりですかね。

J 図書館はどういうものを作るのかコンセプトがまったくわからない。

J 図書館はこういうものを作るのかコンセプトがまったくわからない。

H 図書館本館再整備基本計画検討委員会に市民委員も何人か入っているが、これもアリバイづくりですかね。

A 例えば4案あつてそのうちのどれを選択しますか、で投票する。その方がほとんど市民の意見を反映しているじゃないですか。

B 本来そうあるべきなんですよ。

A パルテノンとその近くに中央図書館を建てて、パルテノンの4階を子育て広場的なものに改築してシナジー効果を出し、機能の重複を避けるというんですね。でもそのためには相互にそこに行きたくなるような基本的なしつかりしたコンセプトでデザインすることが先でしょう。単純にパルテノンと同じ

D パブリックコメントは、対象資料がインターネットで閲覧可能だといつても、図書館とか限定された場所におかれていだけで、普通の生活行動の中で十分な読み込みが可能とは言えないでしょう。ワークショップは、1回の会合で、1人が、1つの意見を言つたらだいたいお終い。「貴重なご意見を伺いました」ということで、多様な意見があつたことを確認してお終いなんです。せいぜい1人2、3分しか言えない。結局情報は記録されるが、判断するのはいずれも行政だ。これで市民参加と言えるんですかね。



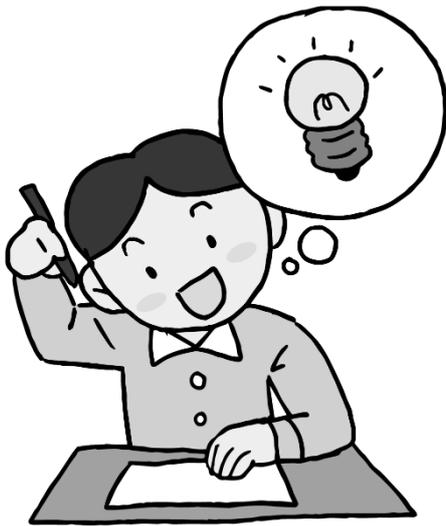
「市民の代表たる議員が決めたことに市民は従うべき」といった議会での発言は傲慢！

J ほかの町では、複合機能を持ち併せて行つてみたくなるいい図書館等がたくさん出来ているのに。

B なぜ子どもが図書館の4階とパルテノンの4階に行かなくちやいけないのか、まったく分らない。

J ような高低差のない図書館にもそんなスペースを設けたら行きかう場所になるのだという発想は極めてパワーだ。

50年後を見通して



市政にも経営感覚が必要だね！

A パルテノンの維持運営はまた現在の財
 団(指定管理者制度)になるんですかね。
 D それしか考えていないもの。
 A パルテノンの**指定管理者制度**の運営費
 は見直す必要があるんじゃないか。もち
 ろん人件費も含まれているわけだけど、
 額に汗して働く多摩市民の血税で全て
 賄ってゆくの、適宜民間力を投入し税
 負担を軽減化すべきか、抜本的見直し
 が求められると思う。市民の税金が毎年何
 億円も注ぎ込まれているんだから。こ
 ういう制度がいつまでも続けられるん
 ですかね。

E この運営方法の在り方はこれから検討
 される予定になっている。特に議会には
 頑張ってもらいたい。
 A この運営方法の在り方はこれから検討
 される予定になっている。特に議会には
 頑張ってもらいたい。
 B 新たに「財政白書」作りをやると市長は
 言うけど「黒書」にして暴いたほうが
 いいね。
 C 市職員からの天下りは理事だけじゃな
 いでしょ。
 E こういう話もある。いまだ公園の緑を
 切ってコンクリートのハコを建てる
 の？なぜ？と聞かれたらなんて答
 えるか。これでは市長のお得意の「シビ
 ックプライド」ではなく「シビックシエ
 イム」になっちゃう。「誇り」じゃなく「恥」
 になっちゃう。
 E オリンピックの後に多摩市制50周年が
 くる。パルテノンも図書館も、新市庁舎
 もこれからの建物は60年償却を前提と
 したものになるでしょう。
 E 多摩市は今でも高齢人口が多くて、これ
 から先さらに加速度的に高齢者が増加
 し、しかしその先は急激に人口減となる。
 E ニュータウン一期生として生きてきた
 経験者はこのまちの生き証人として次
 の50年を柔らかに描き出す責任がある
 んじゃないですか。少子高齢化を縮小均

衡にしないための公共施設あり方を問
いたいですね。(了)

入会申込書

氏名
住所
電話・FAX
メールアドレス

■会費・カンパ振込先■

みずほ銀行多摩センター支店 1197246
「多摩市議会ウオッチングの会」

■申し込み■

「ウオッチング多摩」の会 代表 神津幸夫
〒206-0034 多摩市鶴牧 3-14-2-102 042-372-9496
HP: <http://watching-tama.com/>

★入会金は必要ありませんが、会報発行等の活動維持の
ために年会費 2000 円を頂いております。